

きたはら  
北原 2 遺跡発掘調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成 23 年 6 月 28 日

調査要項

遺跡名(番号) 北原 2 遺跡(平成 11 年度登録)  
所在地 山形県村山市大字本飯田字北原  
時代・種別 縄文時代・集落跡  
起因事業 東北中央道(東根～尾花沢間)  
調査依頼者 国土交通省東北地方整備局  
山形河川国道事務所  
調査機関 財団法人山形県埋蔵文化財センター  
現地調査 平成 23 年 5 月 9 日から 6 月 30 日まで  
調査面積 1,050㎡  
調査担当者 調査員 渡部裕司(現場責任者)  
調査員 濱松優介



図 1 遺跡位置図(1/50,000)

調査成果(6月28日現在)

検出遺構 縄文時代：土坑 ピット 溝状遺構

出土遺物 縄文時代：縄文土器(深鉢、浅鉢、注口土器) 石器(石鏃)

## 1 調査の概要

北原 2 遺跡は山形盆地と尾花沢盆地との境に広がる丘陵に位置し、最上川の支流沢の目川が西側を流れています(図 1)。昭和 61 年度と平成 22 年度には、約 600m ほど北側の北原 4 遺跡で発掘調査が行われ、縄文時代と奈良平安時代の遺構・遺物が発見されています。23 年度の調査は、22 年度のトレンチ調査の結果に基づいて、遺跡範囲の南部 1,050㎡を調査の対象としています。

## 2 見つかった遺構と遺物

調査区がある地形は東西南を低丘陵に囲まれ北側がひらけています。北端部での標高は約 87m、南端部ではそれより約 5m 高くなっています。調査区中央から北西側では、溝状の遺構や倒木痕が複数検出され、それらの堆

積土から縄文土器や石器が出土しています。特に SD53 溝状遺構では深鉢の土器破片がまとまって出土しました(写真 1)。SX51 遺構では浅鉢が倒立した状態で出土しました(写真 2)。SX30 遺構の堆積土からは、注口土器の破片が見つかっています。調査区全体では、縄文時代中期の土器はわずかで、多くは縄文時代晩期のものと考えられます。

## 3 まとめ

縄文時代晩期頃の遺跡であることが分かりました。建物や貯蔵穴など明確な縄文時代の生活の跡はありませんが、土器の出土状況などから、調査区のさらに西側に集落が広がっていた可能性は十分に考えられます。今後、出土した縄文土器などを詳細に調べ、より具体的な遺跡の年代を明らかにする必要があります。

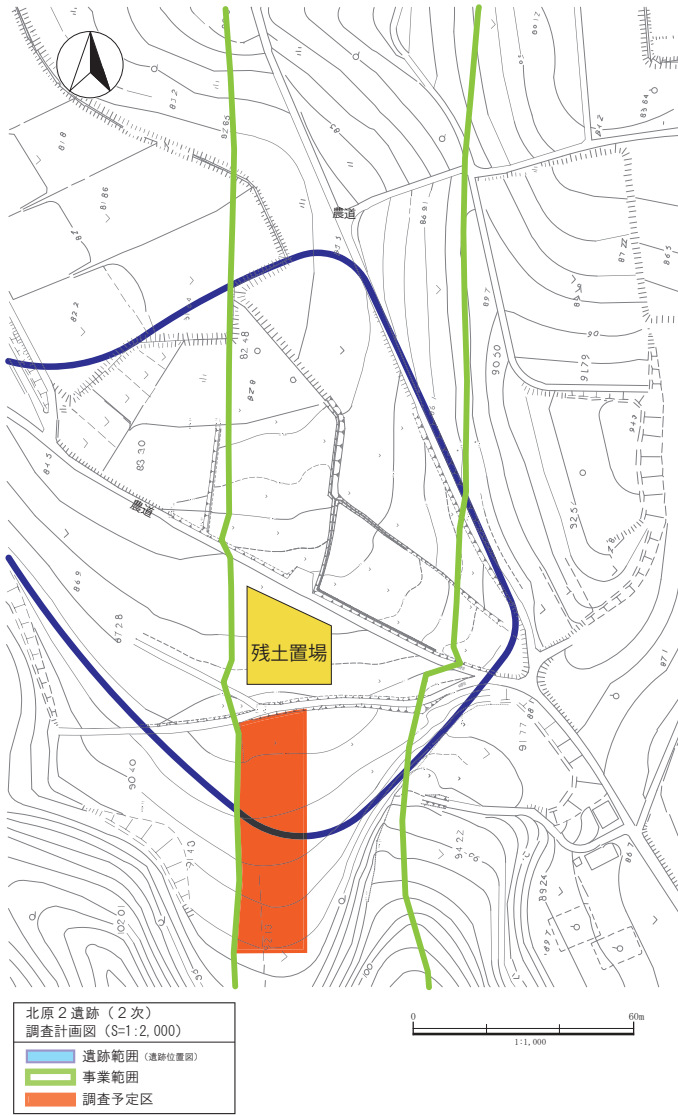


図2 調査区位置図(1/2000)

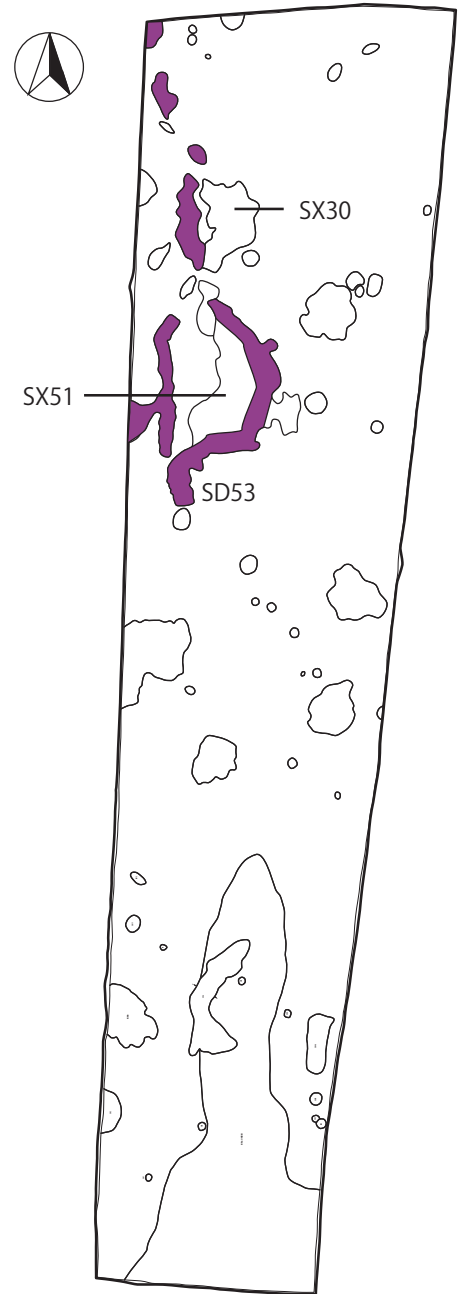


図3 遺構配置図(1/400)



写真1 SD53 土器出土状況



写真2 SX51 土器出土状況